

2. 事業の概要と成果

(1) プロジェクト目標 の達成度 (今期事業達成目標)

上位目標:

ラオス北部シエンクワン県ペック郡のヨードグム地区における貧困層が、不発弾による子どもの心身への損傷を防ぐこと、また彼らの家族が多様な収入源を確保し経済的に自立することで、将来の担い手となる子どもたちの高等教育を受ける権利の保障並びに社会開発が促進される。

上位目標の達成に向けた成果

NRA から認可を得た子ども向けの回避教育教材を用いて、対象村での幼児およびその家族への回避訓練を開始した（幼児 220 名のところ、今期は 150 名。68%）。コロナ禍で教育施設が休校し、回避教育が行えなかったため、次期は教育機関が開校され次第、回避教育を実施する。回避教育への参加者（幼児、家族）は熱心に活動に参加していた。回避教育を継続することで、不発弾に対する子どもたちの理解が向上し、心身への損傷を防ぐことに貢献すると考えられる。

1 年次の裁縫、キノコ栽培、養蜂の各グループへの訓練を実施（計画通り 40 名）し、収入源の確保への一歩を踏み出したが、コロナ禍での活動の遅れにより、まだ経済的に自立するまでの収入は得られていないため、次期も引き続き 1 年次ひ益者フォローアップを行うとともに、2 年次ひ益者（2 年次は 36 名）への支援も実施する。

プロジェクト目標:

対象地域に居住する幼児らが不発弾事故による将来の機会損失を無くすと共に、「社会経済的に脆弱な人々」が安定した収入を確保する基盤を整える。

今期事業達成目標:

対象地域に居住する幼児らが不発弾事故による将来の機会損失を無くすと共に、「社会経済的に脆弱な人々」が安定した収入を確保する基盤を整える。

今期事業達成目標への貢献

1、多機能型協働施設及び裁縫店舗の建設・管理

- ・多機能型協働施設：1 棟
- ・共同裁縫作業スペース兼店舗：3 店舗

の建設が完了し、貧困層家庭および不発弾事故およびその家族が多様な収入源を確保し経済的に自立するための活動の場ができた。各訓練に必要な資機材の購入および搬入についても完了した。

2、回避教育（Mine Risk Education, MRE）支援

コロナ禍で弊会日本人デザイナーおよび現地事業責任者が事業地に渡航できない中、関係機関との情報交換や MRE 会議、不発弾関連の研修からの情報収集により、教材を完成させた。

1 年次に作成した MRE 教材

教材	数量
ポスター5 種	160 枚×5 種=800 枚
絵本（紙芝居）	50 冊

	ステッカー（大）	100 セット
	ステッカー（小）	500 セット
	ノート	500 冊
	ジグソーパズル	100 個
	塗り絵	500 冊
	本教材を使用し、村の集会所などにおいて回避教育を合計 7 回実施し、3-5 歳の幼児 150 名、その家族 153 名が参加した。参加者（特に保護者ら）の興味は高く、親が子どもに活動に参加するように促すなど、積極的な態度が見られた。 3、生計向上支援 裁縫、キノコ栽培および養蜂の職業訓練が全て完了し、多様な収入源の確保による経済的自立の基盤ができた。共同裁縫作業スペース兼店舗 3 店舗に、1 年次裁縫訓練修了者 10 名が 3~4 名ずつ分かれて、裁縫ビジネスを開始した。またキノコハウス 5 棟の設置が完了し、10 名が 2 名ずつのペアになり、キノコ栽培を実施している。養蜂訓練修了者 20 名のうち 15 名が養蜂巣箱を継続的に管理し、うち 9 名が蜂蜜を収穫した（全体で 9.5kg 収穫。5.75kg 販売し、693,000kip の収益）。養蜂からの収益が少なかった原因は、2020 年 12 月から 2021 年 2 月にかけての寒波や雨による、ミツバチの死亡等のためである。 4、現地政府関係機関とのミーティングと視察評価 現地視察評価（3 ヶ月毎に実施）を 2020 年 11 月 24、25 日、2021 年 2 月 5 日、2021 年 7 月 29、30 日に実施した。また 3 月 30 日と 4 月 1 日に 1 年次中間報告会と現地視察評価を実施した。事業 1 年次報告会は 2 年次に入ってから実施する。	
(2) 事業内容	第 1 年次 < 1、多機能型協働施設及び裁縫店舗の建設・管理 > <u>1-1. 多機能型協働施設 1 棟、共同裁縫作業スペース兼店舗 3 棟の建設</u> コロナ禍による行動・公務の制限や現地事業担当者の赴任の遅れなどにより、建設は大幅に遅れたが、事業期間延長後の 1 年次終了（2021 年 8 月 31 日）までに、 ・ 多機能型協働施設 1 棟 ・ 共同裁縫作業スペース兼店舗 3 棟 の建設を完了した。多機能型協働施設の建設場所を 250m 北側に変更し、共同裁縫作業スペース兼店舗 1 店舗建設地も 50m 移動した。 <u>1-2. 事務用品、裁縫の職業訓練用資材、キノコ栽培訓練と養蜂訓練に必要な資機材の購入</u> 同様に予定より遅れたが、1 年次終了までに各訓練に必要な資機材の購入および搬入が完了した。 <u>1-3. 対象地域の自治体に多機能型協働施設の管理表作成を促し、自治体職員と村人と継続的に連携するような仕組みを構築する</u> 多機能型協働施設の完成が、延長後 1 年次終了近かったため、管理表の作成および自治体職員と村人による施設の運営システムの構築は	

2 年次に実施する。

< 2、回避教育支援 (Mine Risk Education, MRE) >

2-1. 紙芝居、配布用ポスター、ステッカー、ノート等の教材の作成

コロナ禍により弊会日本人デザイナーおよび現地事業責任者が事業地に渡航できない中、オンラインでの現地視察や関係機関（県教育スポーツ局、県労働社会福祉局など）との情報交換などを通して、回避教育（MRE）教材を完成させ、2021 年 7 月に NRA からの認可を受けた。MRE 教材の作成および MRE の実施に先立ち、2021 年 1 月 20～23 日に弊会職員 6 名がラオス不発弾処理統制機構（NRA）において、MRE 実施において必須となった MRE 訓練を受講した。また 2021 年 3 月 16～17 日には MRE 専用の IMSMA データベース利用のための訓練を弊会職員 3 名が受講した。

2-2. 回避教育講師が幼児教育施設にて回避教育レクリエーション実施

ラオス政府のコロナ対策による度重なる学校休校を受け、1 年次の MRE レクリエーションは実施できていない。学校が開校され次第、2 年次に 1 年次に実施予定の MRE レクリエーションを実施する。

2-3. 回避教育講師が各村の集会所等にて回避教育（MRE）レクリエーションを実施

対象地域の村での MRE レクリエーションは、幼児約 25 名 x 11 回、保護者約 25 名 x 11 回に追加 5 名で、幼児と保護者それぞれ 220 名ずつの計画であった。コロナ対策の影響で実施が遅れ、2021 年 7～8 月に各村で MRE を 7 回実施し*、参加人数は、3-5 歳の幼児 150 名、その家族 153 名であり、1 年次申請時のひ益人口（幼児約 220 名、家族約 220 名）より少なかった。

* Nakhampheang 村での MRE は、村役場と村人での揉め事とコロナ禍での活動制限が原因で遅れたため、1 年次終了後の 11 月に自己資金で実施した。

2-4. 回避教育裨益者（MRE）の意識変革調査

幼児教育施設の園児 89 名および村の幼児 39 名を対象に、MRE 実施前の不発弾に関する基礎知識や理解を評価する意識変革調査（満点：100 点）を実施した*。その結果、平均スコアは幼児教育施設で 39.15 点、村で 11.74 点であり、幼児教育施設の園児のスコアが有意に高かったが、目標値の 80 点には遠く及ばなかった。MRE 後の意識変革調査は 2 回目の MRE 後に実施する。

* 1 年次申請書の「(6) 期待される成果と成果を測る指標」の「<回避教育支援>」の指標 a に回避教育前後に実施と記載。

< 3、生計向上支援 >

◆訓練分野

(1) 能力向上支援（職業訓練）

【訓練参加者の選抜】

対象地区より裁縫訓練参加者（不発弾爆発事故被害者とその家族 4 名、貧困家庭 6 名）、キノコ栽培訓練参加者 10 名（不発弾爆発事故被

害者家族 1 名、貧困家庭 9 名)、養蜂訓練参加者 20 名(不発弾爆発事故被害者とその家族 4 名、貧困家庭 16 名)を選抜した。

【ベースライン調査】

3 分野の職業訓練参加者を対象に、ベースライン調査を行った。

ベースライン調査の結果

分野	年齢	年収	負債	学歴	家族人数	子供の数
裁縫	26.0	1,711,111	4,535,000	G8.1	6.9	1.4
キノコ栽培	37.1	11,500,000	12,000,000	G9.6	5.3	2.1
養蜂	37.5	7,970,000	7,515,000	G7.0	6.5	2.4
平均	34.3	7,127,805	7,771,951	G7.9	6.2	2.1

裁縫訓練：シエンクワン統合技術職業教育カレッジにおいて、2020 年 10 月 14 日から 2021 年 1 月 27 日まで実施し、訓練受講者 10 名全員が 70 点以上の成績を取得し、訓練を終了した。

キノコ栽培訓練：コロナ禍での多機能型協働施設の建設が遅れたことから、訓練はシエンクワン統合技術職業教育カレッジにおいて、2021 年 1 月 25 日から 2 月 8 日まで実施し、受講した 10 名全員が訓練を終了した。

養蜂訓練：多機能型協働施設の完成が遅れたため、ヨートグム村事務所とその敷地内において 2020 年 11 月 27 日～12 月 1 日まで実施し、受講した 20 名全員が訓練を終了した。

3-1. 裁縫訓練

訓練終了後、1-1 で建設した共同裁縫作業スペース兼店舗 3 棟において、衣類の生産販売を開始している。裁縫店の建設が 1 年次終了間近であったため、裁縫メンバーのフォローアップは 2 年次に実施する。

3-2. キノコ栽培訓練

訓練終了後、2 世帯ペアに 1 棟のキノコハウスの資材を供与し、シエンクワン統合技術職業教育カレッジのトレーナーの指導のもと、2021 年 2 月に全 5 棟を設置完了させ、各ペアはキノコ栽培を開始した。また同校トレーナーによりキノコ栽培グループの技術面でのフォローアップを月 4 回実施した。

3-3. 養蜂訓練

訓練終了後よりペック郡農林局の養蜂技官により、技能面でのフォローアップを実施し、2021 年 5 月に蜂蜜の収穫訓練、6 月にはひ益者の蜂蜜の収穫を行った。また、9 月には蜂蜜の圧搾と瓶詰めを行った。

(2) 技術向上・販売支援：

3-4. 経理アドバイザーによる家計簿の管理方法の講座の実施

裁縫(2021 年 3 月 6-7 日)、キノコ栽培(2021 年 3 月 18-19 日)、養蜂(2021 年 2 月 11-12 日および 18 日)の各グループにそれぞれ、2 日間の家計簿・収支の管理方法の講座を実施した。

3-5. 職業訓練ひ益者に対する家計の管理とビジネスの講習

	家計簿管理講座を実施した後、経理アドバイザーが各グループを訪問し、収支の管理についてのフォローアップを実施した。 また、3-4 と同様に裁縫、キノコ栽培、養蜂の各グループに対し、スモールビジネスマネージメントとマーケティングの講習を実施した。 <u>3-6. 裁縫の共同作業スペース兼店舗への資機材の調達・供与、開業のための支援及び継続的な商品の製造・販売のためのグループ化促進</u> 共同裁縫作業スペース兼店舗の建設終了後、ミシンやアイロン、作業台など裁縫に必要な資機材を搬入した。また、商品製造を開始する資金として、90 万キップ/人を供与した。 商品の製造・販売の開始が 2021 年 8 月であったため、裁縫メンバーのグループ化促進は、2 年次ひき算者と併せて 2 年次に実施する。 < 4、現地政府関係機関とのミーティングと視察評価 > <u>4-1. 事業開始式の開催</u> コロナ禍での公務の制限などの影響によりスケジュールが大幅に遅れ、MOU の締結は 2020 年 8 月 21 日に、事業開始式は 2020 年 10 月 30 日に実施された。 <u>4-2. 現地視察評価の実施</u> 【3 ヶ月視察評価】 2020 年 11 月 24、25 日に県行政局、県労働社会福祉局による現地視察（建設地や職業訓練受講者の視察評価）を実施した。また 2021 年 2 月 5 日にも、県労働社会福祉局、ペック郡労働社会福祉課、ペック郡庁による建設の進捗について視察評価を行った。 【9 ヶ月視察評価】 2021 年 7 月 29、30 日に県労働社会福祉局、県不発弾部門、ペック郡労働社会福祉課によるキノコ栽培および養蜂の視察評価を実施した。 4-3 の上半期報告会実施時にも現地視察評価を実施した。 <u>4-3. 1 年次上半期報告会の実施</u> 2021 年 3 月 30 日と 1 日空けた 4 月 1 日に、IMC（Implementation and Management Committee）メンバーによる、本事業の現地視察評価（モニタリング）と 1 年次上半期報告会をそれぞれ実施した。 <u>4-4. 事業 1 年次報告会の実施</u> コロナ禍での行動制限や現地事業責任者の赴任の遅れなどの影響で、事業 1 年次報告会の開催が遅れ、2 年次に実施する。
(3) 達成された成果	< 多機能型協働施設の建設・管理 > <u>(1) 成果：回避教育や生計向上支援の活動が行えるよう、計画通りに建設されており、且つ、自治体が村人と連携して管理を行っている。</u> 多機能型協働施設 1 棟および共同裁縫作業スペース兼店舗 3 棟の建設 3 棟は計画通り建設された。しかし、コロナ禍により公務や現地での活動が制限された影響で、建設の予定が大幅に遅れたため、施設の建設が終了したのが、1 年次終了に近かった。そのため管理簿の作成、自治体職員による村人の活動のフォロー体制、村人による施設の確認や行政事務所との連絡体制の構築は 2 年次に行う。

指標：自治体職員によるフォロー 3 回/週（未達成：0%）
村人による施設確認など 2 回/週（未達成：0%）

<回避教育支援>

（2）成果 a：対象地域の 5 歳以下子どもが、不発弾に対する正しい知識とその危険性を実感をともなう危険意識を持つ。

【幼児教育施設での MRE】

幼児教育施設における MRE 開始前の意識調査は、幼稚園 3 学年の平均が 39.15 点であった。

幼児教育施設での MRE 実施前の意識調査の結果

学年	人数	平均スコア	S. D.
年少組	19	31.16	12.44
年中組	20	39.45	16.65
年長組	50	42.06	14.24
合計	89	39.15	14.93

MRE 実施前の意識調査実施後に、ラオス政府のコロナ対策により学校が休校となったため、1 年次終了までに MRE を実施できなかった。2 年次に学校が開校され次第 MRE を計画の回数実施し、意識調査により、MRE 前後の園児の不発弾に対する意識・理解を評価する。

指標：意識調査の結果が 37 点から 80 点より上に向上（MRE 未実施：0%）

【村での MRE】

村の集会所での MRE には、3-5 歳の幼児は 150 名、その家族は 153 名が参加した。Nakhampheang 村での MRE は、村内での揉め事により実施が遅れたため、1 年次終了後に自己資金で実施した（申請時表）。

村での MRE 参加者数

実施村	実施日	3-5 歳児	家族
Phousan	2021 年 7 月 27 日	29	20
Viengkham	2021 年 7 月 30 日	5	21
Keo	2021 年 8 月 10 日	6	12
Nasala	2021 年 8 月 5 日	23	33
Buakkop	2021 年 8 月 10 日	40	25
Orun	2021 年 8 月 17 日	15	20
Nakhampheang	2021 年 11 月 17、19 日*	32	22
合計		150	153

*自己資金で実施

各村の 3-5 歳の幼児を対象とした MRE 開始前の意識調査スコアは、平均が 11.74 点であり、幼児教育施設の平均スコアである 39.15 点より大きく下回った。

村での事前テストの結果

年齢	人数	平均スコア	S. D.
----	----	-------	-------

3 歳	14	5. 21	7. 00
4 歳	15	12. 40	8. 70
5 歳	10	19. 90	14. 94
合計	39	11. 74	11. 44

指標 a：意識調査の結果が 37 点から 80 点より上に向上（MRE 後の意識調査未実施：0%）

（2）成果 b：幼児教育従事者、並びに各対象地域となる村のリーダーが、回避教育の手法を理解する。

【幼児教育従事者】

1 年次には、コロナ禍による幼児教育施設の休校が多く、幼児教育従事者を対象とした MRE 実施前の意識調査は未実施である。

指標 b：意識調査の結果が 55 点から 90 点より上に向上（未実施：0%）

【各対象地域となる村のリーダー（有志ボランティア等）：未実施 0%】

1 年次に実施した村の集会所での MRE では、有志ボランティアが参加しない村も多かったこと、子ども達への MRE に慣れていなかったことなどより、有志ボランティアや保護者への意識調査実施まで手が回らなかったため、未実施（0%）。厳密には MRE 実施前ではないが、2 年次に活動が再開できたときに、改めて意識調査を実施する。

指標 b：意識調査の結果が 55 点から 90 点より上に向上（未実施：0%）

<生計向上支援>

（3）成果：裁縫/キノコ栽培/養蜂の職業訓練を受け、各種必要な技術・知識を身につける。

【裁縫】

対象地区から選抜した不発弾爆発事故被害者 1 名、不発弾爆発事故被害者家族 3 名、貧困家庭 6 名の計 10 名に対し、裁縫の職業訓練を実施した。訓練はシエンクワン統合技術職業教育カレッジにおいて、2020 年 10 月 14 日から 2021 年 1 月 27 日まで実施した。

訓練参加者全員が、ほぼ裁縫の技術や知識を持たない状態からスタートして、最終的に全員が 70 点以上の成績を取得し、訓練を終了した。また裁縫講師から製品に対する販売可能の評価を得た。

指標：70%以上の成績&販売可能の評価（100%）

裁縫訓練の結果

訓練生名	成績	GPA	備考
Mrs. Nuri	73.3	3.0	不発弾被害者家族
Mrs. Sompan Eudthlungsee	85.8	3.6	貧困家庭
Mrs. JiaYa Faidayang	86.3	3.6	貧困家庭
Mrs. Xouaya	75.8	3.0	不発弾被害者
Mrs. Maiya Yang	70.4	3.0	不発弾被害者家族
Mrs. Teena Oudthlungsee	80.0	3.0	貧困家庭
Mrs. Chanthee Oudthala	85.0	3.5	貧困家庭
Mrs. Yongwa Yiaporwa	77.5	3.0	貧困家庭
Mrs. Viengkham Keovixay	75.4	3.0	貧困家庭

Mrs. Pawa	78.3	3.0	不発弾被害者家族
-----------	------	-----	----------

【キノコ栽培】

コロナ禍での多機能型協働施設の建設が遅れたことから、キノコ栽培訓練はシエンクワン統合技術職業教育カレッジにおいて、2021年1月25日から2月8日まで実施した。訓練参加者は、不発弾爆発事故被害者家族1名、貧困家庭9名の計10名だった。訓練終了後、各ペアのいずれかの家の敷地に設置したキノコハウスにおいて、訓練中に作成した菌床パックの栽培を行った。また、本事業からの各棟（各ペア）へ供与された栽培開始資金を用いて、新たに菌床パックを作成し、栽培を継続している。

指標：手法の習得、栽培の継続（100%）

【養蜂】

対象地区から選抜した不発弾爆発事故被害者家族4名、貧困家庭16名の計20名に対し、訓練を実施した。養蜂グループ20名のうち12名は各家庭で養蜂を実施し、2021年6月に9名が蜂蜜を収穫した。5名は養蜂を継続する意思があるものの（弊会聞き取り調査）、他県への出稼ぎなどで、十分に巣箱を管理できなかった。残り3名は養蜂を辞退したため、2年次に新規ひ益者を追加選抜する。

指標：巣箱製作管理法の習得、養蜂の実践（60%）

（3）技術向上・販売支援

3分野の職業訓練参加者を対象に、ベースライン調査を行った。裁縫への参加者は年齢が若く、収入は低い傾向にあった。キノコ栽培と養蜂は高めの年齢層で収入が高いが、負債も大きかった。

ベースライン調査の結果

分野	年齢	年収	負債	学歴	家族人数	子供の数
裁縫	26.0	1,711,111	4,535,000	G8.1	6.9	1.4
キノコ栽培	37.1	11,500,000	12,000,000	G9.6	5.3	2.1
養蜂	37.5	7,970,000	7,515,000	G7.0	6.5	2.4
平均	34.3	7,127,805	7,771,951	G7.9	6.2	2.1

成果（裁縫）：裨益者が、家計簿の管理方法を身につけ、裁縫の店舗を構えて開業し、商品を販売できている

生産・販売は1年次終了間際に開始したため、初年度の利益は平均で、541,000kip（現レートで約5,600円）の赤字だった。2年次も引き続き、技術面およびビジネス面でのフォローアップを継続する。

指標：1,030,000kip/年の利益（未達成：0%）

1年次終了時点での裁縫メンバーの利益

No.	氏名	収入	支出	利益
1	Ms. Nuri	-	-	-
2	Ms. Sompan	226,000	36,000	190,000
3	Ms. JiaYa	145,000	331,000	-186,000
4	Ms. Xouaya	1,090,000	1,346,000	-256,000

5	Ms. Maiya	-	-	-
6	Ms. Teena	103,000	40,000	63,000
7	Ms. Chanthee	-	-	-
8	Ms. Yongwa	-	-	-
9	Ms. Viengkham	-	301,000	-301,000
10	Ms. Pawa	30,000	81,000	-51,000
			平均	-541,000

成果（キノコ栽培）：裨益者が、家計簿の管理方法を身につけ、栽培の仕方を実践して収穫物を市場で販売できている。

1 年次は、職業訓練時に製造した菌床パック 670 個と、本事業より供与された資金の一部でひ益者自身が製造した菌床パックの栽培により得た収支は、平均でキノコハウス 1 棟当り 151,200kip の赤字であった。

指標：1,268,000kip/年の利益（未達成：0%）

赤字の原因としては、

- ・材料の配合率が正確でなく出芽率が悪いパックがあった
- ・雨季にも栽培したため、キノコに虫がついたり、青カビが生えたりした。
- ・ハウス 3 は、設置場所が家畜小屋に近過ぎたために虫が大量発生した

などが専門家による分析である。ハウス 3 については場所を移動する。今後は雨季を避けて栽培するほか、薬草を用いた虫除けの製法も指導する。

1 年次終了時点でのキノコ栽培グループの収支

No.	訓練中に作成		供与資金で作成		利益
	収入	支出	収入	支出	
1	1,241,000	1,498,000	1,541,000	692,000	592,000
2	1,700,000	1,498,000	435,000	508,000	129,000
3	1,183,000	1,498,000	1,125,000	1,654,000	-844,000
4	888,000	1,498,000	926,000	442,000	-126,000
5	916,000	1,498,000	517,000	442,000	-507,000
平均	1,185,600	1,498,000	908,800	747,600	-151,200

成果（養蜂）：裨益者が、家計簿の管理方法を身につけ、蜂の巣箱の製作方法、管理方法を実践し、収穫時期に向けて準備が整う。

本事業 1 年次の実施期間を 2021 年 8 月 31 日まで延長したため、1 年次養蜂ひ益者も 2021 年 6 月に収穫を行うことができた。

20 名のうち、常に活動に参加し巣箱の管理を継続している 12 名のうち、今回収穫できたのは 9 名であった。総収穫量は圧搾前の重量で 17.6kg であった。家族で消費した分や自分で販売した分を除くと 12.4kg であり、圧搾後の重量は 9.5kg(*) であった。うち 5.75kg を販売し、全体で 693,000kip の収益。

(*)2020 年度は事業地の気温が低かったため、蜜蜂が集まらず蜂蜜収量が少なかった。

	指標：習得した知識と技術を活かし販売の準備（12名：60%） <現地政府関係機関とのミーティングと視察評価> （４）成果：定期的な現地関係機関との事業管理、モニタリングとミーティングが実施され、現地行政のコミットメントが高まる。 【上半期報告会・年次報告会】 2021年3月30日と1日空けた4月1日に、IMC（Implementation and Management Committee）メンバーによる、モニタリングと上半期報告会を実施した後、中間報告書をIMCメンバーに提出した。年次報告会については、1年次に実施できなかったため、2年次に実施する。 指標：中間・終了報告会実施（中間報告会のみ実施：50%） 【3ヶ月視察評価（3ヶ月・9ヶ月）】 2020年11月24～25日、2021年2月5日に県およびペック郡の関係機関による視察評価を実施し、建設および職業訓練の進捗を評価した。2021年7月29日、30日に県およびペック郡の関係機関によるキノコ栽培および養蜂の視察評価を行った。 指標：3ヶ月に一度視察評価（中間報告会時の視察評価の他、視察を3回実施：75%）
（４）持続発展性	回避教育 本事業地は、世界有数の不発弾汚染地域であり、現地政府機関や一般の住民の不発弾に関する危機意識は高く、回避教育にも熱心に参加している。ラオス政府機関である UXO-LAO や複数の海外機関が子ども向けに回避教育を実施しているが、小学校以上を対象としたものだけで、本事業のような5歳以下の幼児向けの実施はない。弊会の MRE 実施前の意識調査の結果も幼児の不発弾に対する理解度や知識は非常に低いことを示している。また近年も子どもが被害となる爆発事故が発生している。 MRE の持続発展性のために、2年次の本格的な MRE 実施に際し、村ボランティアや幼児教育施設の教員が弊会とともに MRE を一緒に実施することでその手法を習得させる。また県労働社会福祉局、郡労働社会福祉課および郡教育スポーツ課、ヨートグム地域事務所、各村役場と協議して、村および教育施設での MRE 継続の同意を取り付けることで、事業終了後の MRE 継続を担保する。 生計向上 本事業地は不発弾の残存により、農地を耕さずに収益を得る活動は、地域住民にもニーズが高い。 裁縫：地方のラオス社会は未だ地域や親族の絆が強く、冠婚葬祭などが多く、衣装を仕立てる習慣があるため、裁縫ビジネスのマーケットには持続性がある。 キノコ栽培：資材が手に入りやすく、キノコは地域の需要に対し、供給が足りていない状況である。また最寄りの市場や家の前での販売が容易であるため、技術とキノコハウスを供与すれば、キノコ栽培が持続しやすい活動である。 養蜂：本事業はアジアミツバチによる養蜂であるため、手間と時間を

	かけずに副収入を得られる活動であるが、収穫時期が限られ、収穫量がセイヨウミツバチに比べ少ないため、弊会が継続してアジアミツバチの価値をアピールできるような販売をサポートする。 <u>ハード面からの活動の持続発展性</u> 多機能型協働施設および共同裁縫作業スペース兼店舗は、事業終了後はラオス政府にハンドオーバーされ、関係機関が目的の活動に継続して使用すると MOU に記されている。また弊会が活動を継続する場合も同施設を引き続き利用すると明記されている。したがって、目的外に使用されることなく、回避教育や住民の生計向上のための持続的な活動に継続使用される。
--	--